

妊娠中の歯科治療について

妊娠の可能性のある方・妊娠中の方は、かならずお申し出ください。
事前に歯科医師と相談し、納得された上で治療をお受けください。

妊娠中の歯科治療は、お腹のお子さんに影響があると思っている方もおられますが、時期に注意すれば歯を抜くことも可能です。逆に、ムシ歯で痛くて眠れない、食事ができない、イライラするなどの症状が続けば胎教にもよくありません。

妊娠初期（1～4ヶ月）

過度の緊張や長時間にわたる治療は避け、
応急処置にとどめます。



妊娠中期（5～7ヶ月）

ほとんどの方が問題なく
治療できます。



妊娠後期（8～10ヶ月）

母体に負担がかかるため、
緊急を要しない
限りは応急
処置のみを
行います。



麻酔

急性症状で重症化を招く場合や外科処置を行う上で、局所麻酔が必要となる場合があります。歯科の麻酔薬は無痛分娩に使用されるもので、体内に入ると肝臓などで分解され、尿と共に排泄されます。麻酔薬が胎盤を通過することが無いため、妊娠中の方でも安全です。

レントゲン



歯科のレントゲン写真は、あごや歯の周辺を撮影するため、直接お腹にX線が当たることはありません。防護エプロンを着用して腹部を保護すれば、被ばく量は限りなくゼロになるため、赤ちゃんへの影響はないとされています。



薬剤

抗生物質は、胎児に悪影響を及ぼす薬があるため、妊娠8週以内では使用しません。鎮痛薬は、痛みによる精神的ストレスがある場合、比較的安全なものを1日1～2回程度使用します。いずれも必要性和安全性を計りにかけ、適切な時期や分量を十分考慮し、通院中の産婦人科の先生に確認してから処方します。



妊娠中はホルモンバランスが変化するため、ムシ歯や歯ぐきの腫れが進行しやすくなります。
出産後まで待つと症状がひどくなる前に、安定期での治療をお勧めします。